

●馬坂川河口の清掃 京都府山城うるおいパートナーシップ事業として 3月30日実施

去年は子どもたちも手伝ってくれまして、手早く清掃作業が進みました。今年の馬坂川の中洲には背の高いヨシの繁茂になっていました。川のゴミを清掃するとしての取組でしたが、このヨシの群落を刈り取ることがまず大仕事として刈払い機を使用してとりかかりました。里山の会は里山農園や木津川の希少植物の維持管理作業で除草を行っているものですから見事に刈り取ることが出来ました。そして集まった仲間の皆さんは京都府から貸与された火箸や手袋を使って沢山のゴミを拾い集めました。集まったごみと刈ったヨシは軽トラックに山盛りになったので里山農園で処分をしようと運び出しました。この日は同志社大学生の3名は茨木市・宇治市・奈良市から午前10時に集まっていたいで懸命にごみ拾いをしていただきました。里山の会からは大村理事長や森島副理事長などを先頭に6名が参加しましたが、一人が足を滑らせ川に転落するというアクシデントが発生しました。京田辺府営団地連合自治会では少し人通りが静かな12棟付近での不法投棄が目立つようになって来て、住民からの苦情が寄せられているようで、対応策に頭を悩ましておられるそうです。



●ミツバチとシロメダカの観察会を行います。ふるってご参加をください。

里山の会では今年初めての観察会を5月18日に行います。数年前から巣作りが大変難しいとされている日本ミツバチの取組に成功されている安岡さんや養蜂家の山岡さん、そして比較的容易だとされる西洋ミツバチに挑戦されている方々からミツバチの生態のお話をさせていただきます。近年多くの農家から受粉作業をする昆虫が少なくなっているとの話題が出ています。NHK・TVでもよく放映されています。現場を観察して正しい理解をしたいものです。そしてその近隣に地下水によってできている小さな池にはシロメダカの繁殖が見られます。この地方では黒メダカが自然に生育しますが、人工的に交配されて自然界にはいないとされているシロメダカがおりますので、①譲渡しないこと。と②自然界に逃がさない事。を約束くださる皆さんにおすそ分けをさせていただきます、生き物を大切にする仲間を広げられたいと考えて取組を行います。メール(fddb257@yahoo.co.jp)にて氏名、年齢、住所、電話番号をお知らせの上、申し込んでください。当日の集合場所は里山の会事務所です。少雨決行、時間厳守でお願いします。持参物は魚とり用網、バケツ タオル 濡れてもよい靴、水筒、帽子、筆記具、申し込み締切り期日は5月5日です。申込多数の場合は抽選(5月7日)になります。

募集人数は10家族で、中学生以下は保護者同伴が必要です。参加費は無料です。

小さな生き物の世界をのぞいてみませんか シロメダカを飼育してみませんか

ミツバチとシロメダカの観察会

馬坂川の下の方々とした畑地。伏流水が湧き出る池ではシロメダカが繁殖しています。池の近くの巣箱では日本ミツバチがハチミツを集めています。ミツバチとメダカの暮らしを学び、メダカをすくって飼育してみませんか。小さな生き物の世界の友達になりましょう。

5月18日(土) 9:30~12:00 里山の会事務所近くの農地

集合場所 里山の会事務所 京田辺市田辺深田 15

近鉄線：新田辺駅下車 徒歩15分
自動車でお越しの場合は市役所の駐車場を利用してください

申し込み先 fddb257@yahoo.co.jp Tel. fax 0774-64-4183

記入事項 氏名 住所 年齢 電話番号(メールアドレス) 交通手段
締め切り 5月5日(日) 親子10組を抽選でさめ連絡します

持ち物 魚とり用網 帽子 水筒 タオル 濡れてよい靴 筆記用具
メダカいれ用バケツまたは水槽
エアポンプ(ある人) ビニール袋
水を凍らせたペットボトル(500ml)

10匹前後を持ち帰ってもらいます。
メダカ1匹を飼育するためには30cm以上の水槽が必要です。砂、水草を入れてください。
ない方は、当日、川取、水草をお分けします。
通過狭道があると飼育しやすいです。水道水を3日前にはカルキ抜きをしておいて下さい。

お分けするメダカは自然界には生息していないシロメダカです。ですから放流してはいけません。
最後までお持ちの水槽で飼育してください。
必ずお持ちください。
自然界のメダカは黒メダカからです。

ミツバチとメダカの観察と説明
ミツバチ.....養蜂農家 安岡俊博 山岡治作 吉村国男
メダカ.....里山の会 魚部会 福井波恵

参加費無料 保険料負担有り

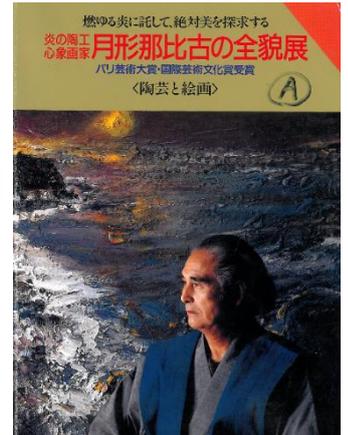
主催 特定非営利活動法人 やましろ里山の会

●かつて木津川に生息していた国の天然記念物イタセンパラを復元する取り組みとして 玉水浜のワンドへの通路と周囲の除草作業を行いました。 3月28日(木)

2007年まで木津川で生息していたイタセンパラのワンドと環境が残されているので進入通路と周囲の除草を目的に作業を行いました。先の増水で三つのワンドは満水状態でコイが元気に泳ぎまわって産卵活動らしき動きが見られました。高水敷では昨年の外来魚駆除を目的にした100人が参加いただいた第1回釣り大会では植物の大繁茂があって通路が確保できませんでしたので、春先から除草作業を実行しておくべきだとの教訓から行いました。すでに胸の高さまで成長しており、ハンマーモア(自走刈り機)の能力限界に早くも到達してしまいそうな成長ぶりでした。2台のハンマーモアを使って昨年実現できなかったCワンドまでの新しい通路を確保することが出来ました。今後通路の確保維持のため、ハンマーモアの出動を計画実行していく必要があるだろうと思われます。

●前理事「青代茂治」さまのご逝去(3月25日・中央病院・肺がん)をお伝えします。

青代さんは里山農園を開拓し初めた頃、里山の会事務所に来られて、入会されました。里山農園の1号地2号地の開拓が進み始めた頃道具の入れ場に困っていますと話すのでブルーシートを買ってきて、岐阜への往復の茶碗を焼く合間(3日間や1週間ごと)に農園に足を運んで野小屋を建てていただきました。この頃の里山の会は財政的に非常に弱くブルーシートを買う力もありませんでした。そしてようやく教育棟を建設すると、ここで野点をしましょう。と発案され、お茶碗の提供をもちだされました。岐阜の月形那比古の鬼志野焼の窯元の職人です、と紹介がありました。惜しげもなく当時50万以上の売値のするお茶碗など10個を差し出していただき、結成20周年のお茶会を開くことが出来ました。そして発電機(青色)の御寄贈なども頂き活動に幅がで、夜の生き物調べなどの開催が可能となりました。また里山の会の存続について理事のなりて不足が目立った時にも率先して引き受けていただくなど、裏方として頑張ってくださいました。お聞きすると2週間ほどの患いでのご逝去とお聞きしました。決して表に立たず、今必要なことにご尽力していただきました。青代様を失うことは非常に残念です。ご提言にあった全会員が集えるイベントや総会が開催できる組織作りのために頑張ることをお約束をして、やすらかにご冥福をお祈り致します。(月形那比古さんとは同郷の同学年の旧友だったそうで、彼の右腕として活動されいたそうです)。



●今年の桜の開花や満開の時期はかなり早まるのではないかと予想されていました。特に里山の会の「親子花見乗船体験」をどの時期に開会するかという相談では、3月末に満開になるだろうというのが殆どの判断でした。ところが予想通りにならずに4月3日の桜冷えと雨天ですのまだ7分咲きのようです。この雨が止む金曜日(5日)が満開になり、入学式を祝うかのように咲き乱れるのではないのでしょうか。「親子花見乗船体験」を実行できないのは誠に残念でありませんが、ご家族そろってお花見など楽しんでみてください。